

「プロジェクトワイルドエデューケーター養成講座 in 武蔵野大学」参加者募集

プロジェクト・ワイルドは、アメリカ合衆国で幼稚園から高校までの生徒を指導する教育者向けに開発された、生き物を題材とする環境教育プログラムです。参加者の気づきや理解から始まり、段階的に生態系の原理や文化などの知識、管理や保全などへの人間の役割、価値観の多様性や環境問題の構造を認識した上で、野生生物と自然資源に対して責任ある行動や建設的な活動を身につけていくことを目的としています。全米各州の教育局及び資源管理局の代表者により組織されている環境教育協議会（Council of Environmental Education：CEE）が運営しており、今では、アメリカで最も広く使用されている環境教育プログラムの一つです。

詳細は→プロジェクトWE T公式 HP <http://www.projectwild.jp>

武蔵野大学以外の方でも参加可能です

■日時：2007年7月17日（火）9:00～18:00

※この日は、「海の日」が通常授業になることに伴う振替で、武蔵野大学は全日休講

■会場：武蔵野大学キャンパス

アクセス→<http://www.musashino-u.ac.jp/accessmap/>

■費用：一般参加者 6000円（テキスト3冊、保険代含む）

本学関係者 4000円（テキスト3冊、保険代含む）

■持ち物：筆記用具、タオル、弁当、テキストを入れる入れ物※（※注：テキストは電話帳サイズでかなり重さがあります）、楽しむ心、笑顔

■服装：野外での活動に適した服装、靴

■講師：岩崎仁先生／村松 陸雄（武蔵野大学）

岩崎 仁（いわさき ひとし）先生プロフィール

山梨県生まれ。静岡県在住。道路建設に伴う故郷のオオタカの森の保護活動に参加するものの、住民自身の環境意識のボトムアップが必要であることに気付き、環境教育指導者を志す。日本野鳥の会のインターンレンジャーを経て、ホールアース自然学校に入社。コーディネーターとして環境省田貫湖ふれあい自然塾の施設運営などを担当し、2006年独立。現在「roots&fruits」代表として、「身近な生き物を通して生活環境を考える」をテーマに様々な活動を展開。

■募集人数：20名（定員になり次第募集を締切りますのでお早めお申込み下さい）

■参加申込&問い合わせ先：

202-8585 東京都西東京市新町 1-1-20

武蔵野大学 環境学部 環境学科 環境学専攻

村松 陸雄

メール：

プロジェクト・ワイルドの目的

気づきから、責任ある行動へ

プロジェクト・ワイルドでは、

子供たち自身が、自分の考えで、環境問題に対して、正しい情報に基づきながら、どのように行動すべきかという「自己決定能力」が大切であると考えており、そして、学習を深めていくことにより、「責任ある行動」ができるようになると考えています。

そのために、気づきや感性を磨き、正確な情報による知識を身につけ理解し、そして、実践力を身につけるまでのプロセスを7つのテーマにより、体系化しています。

プロジェクト・ワイルドテキストの特徴

学年別、教科別

育てたい能力別に整理

プロジェクト・ワイルドのテキストは、7つのテーマで構成されています。

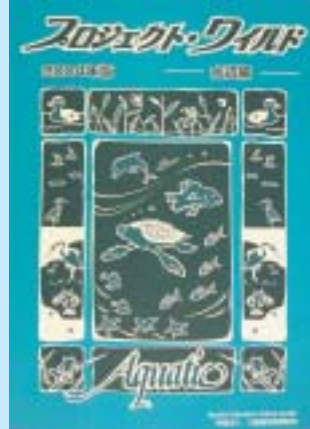
1. 気づきと理解
2. さまざまな価値観
3. 生態系の原理
4. 管理と保全
5. 文化と野生生物
6. 傾向問題点及び結果
7. 人間の責任ある行動

プロジェクト・ワイルドのテキストは、環境容量、食物連鎖などのテーマ別や対象学年、対象人数、能力などに応じて整理されており、指導者は目的に応じてアクティビティを選択することができます。

プロジェクト・ワイルド テキスト(活動ガイド)



本編



水辺編



新アクティビティ集



サイエンス&シビックス編

プロジェクト・ワイルドをもっと知るには?

ぜひ、プロジェクト・ワイルドホームページへアクセスしてみてください!

<http://projectwild.prjf.or.jp>

お問い合わせ

プロジェクト・ワイルド事務局

〒106-0041 東京都港区麻布台2-4-5 メソニック39MTビル11階(財)公園緑地管理財団内
TEL03-3431-4865 Fax03-3436-4548 E-mail projectwild@prjf.or.jp



What is Project Wild?

環境教育プログラム

プロジェクト・ワイルドって?

気づきから、責任ある行動へ

「自然を大切に」と理解するだけでなく、

自然や環境のために行動できる人を育成することに取り組んだ

環境教育プログラム、それがプロジェクト・ワイルドです。

project WILD

環境教育プログラム *プロジェクト・ワイルド*

プロジェクト・ワイルドとは?

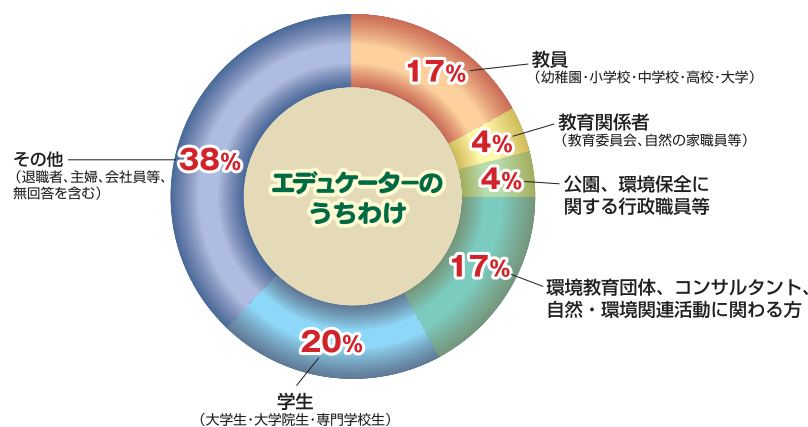
プロジェクト・ワイルドは、
「自然を大切に」と理解するだけでなく、自然や環境のために行動できる人を育成することに取り組んだ生き物を題材とした環境教育プログラムです。

プロジェクト・ワイルドは、
幼稚園から高校までの生徒を指導する教育者向けに米国で開発され、現在米国において最も広く使われています。1983年からこれまでに全米で90万人以上の指導者が養成され、4,800万人以上の子どもたちがワークショップを受けました。アメリカ、日本の他、カナダ、チェコ、インド、アイスランド、スウェーデンでも導入されています。

日本には、1999年に導入され、これまでに8,500名のエドゥケーター、350名のファシリテーターが誕生し(2005年4月現在)、学校での総合学習の時間や、野外活動など、さまざまな場面で、プロジェクト・ワイルドを活用した環境教育が実践されています。

米国での運営組織
米国環境教育協議会 (CEE: Council of Environmental Education)
<http://www.projectwild.org>
全米各州の教育局及び自然管理局の代表により組織されています。

日本での運営組織
財団法人公園緑地管理財団
<http://projectwild.prjf.or.jp>
CEEとライセンス契約を行い、活動ガイドの翻訳・活用・養成講習会を行い、環境教育の普及、指導者の育成を図っています。



プロジェクト・ワイルドのしくみ

プロジェクト・ワイルドのシステムは、
人を育てることに重点が置かれています。講習会で養成された指導者「エドゥケーター」がワークショップを行うことにより、子どもたちを、自然や環境のために行動できる人へと導きます。

コーディネーター

ファシリテーター養成講習会
年2回開催しています。



ファシリテーター

エドゥケーター養成講習会
全国各地で開催されています。



エドゥケーター

ワークショップ
総合的な学習の時間や、野外活動など、さまざまな場面で環境教育を実践します。



子どもたち

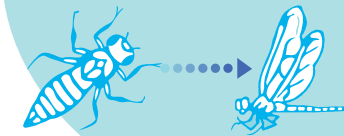
プロジェクト・ワイルドのさまざまなアクティビティ

プロジェクト・ワイルドには、約200のアクティビティがあり、総合的な学習の時間や、野外活動など、さまざまな場面に応じて、使うことができます。アクティビティには、子どもたちが夢中になる楽しさが盛り込まれており、実際に生態系の仕組みと人間の関係や生活を模擬体験し、学びます。

〔私は誰でしょう?〕

水辺編: 第1章 気づきと理解

さまざまな、水辺の生き物の幼虫や子どもの姿と親の姿を描いたカードを用いて、それぞれの種の幼生期と親の正しい組み合わせを見つけます。



水辺の生き物の幼虫や子ども(幼生、幼体)を、識別して、親(成体)とのつながりを学びます。

〔湿地を何かに例えると?〕

水辺編: 第3章 生態系の原理

子どもたちに、湿地の自然の動きを例えるもの(例えば、スポンジ、泡だて器、ふるい、コーヒーフィルター)を渡し、それを手にとることにより、湿地の動きを学びます。



湿地の特徴や、生き物や人間にとって、湿地が大切な役割を果たしていることを、話し合って理解します。



〔つながり発見! 生息地〕

本編: 第1章 気づきと理解

みんなで、生息地の構成要素になり、つながって輪をつくり、生息地を表現します。



- 生息地の構成要素にはなにがあるのか、人間や他の動物が、どのように生息地に依存しているかわかるようになります。
- 人間や野生生物にとって、生息地が消失したり変化することが、いかに大事かわかるようになります。

〔オー・ディア!〕

本編: 第3章 生態系の原理

「シカ」が生き残りをかけて、生きるための「必要な要素」を求める設定のアクティビティ。子どもたちは、実際に「シカ」と「必要な要素」になり、生態系での出来事を模擬体験します。



絶えず変化する生態系を知り、「野生生物」の個体群に、影響を及ぼす要素について、みんなで話し合い、理解します。

